

世 界 を 変 える た め の 1 7 の 目 標

地域×健康プロジェクト

~持続可能な健康社会を目指して~

岡山県真庭市 チーム健康 まにわ





1 真庭市の概要

2 真庭市の現状

- ・ 真庭市人口ビジョンにみる施策の方向性
- 人口比率と財政見通し
- 介護費用、要介護認定者等の推計
- ・ 医療、福祉分野の分析
- ・まとめ

3 新たな取組に向けて

- 私たちが考える施策のコンセプト
- ・ 健康づくり取組実例 湯原「まんぽジム」
- ・実例に学ぶ地域と行政の役割
- ・ 地域ビジネスモデルの可能性
- ・ 実現可能な地域ビジネスモデル(案)
- ・ 私たちが提案する政策
- ・ 20年後(2040年)へのロードマップ
- ・実現後のさらなる可能性
- ・ さぁはじめよう!地域×健康プログラム

SUSTAINABLE DEVELOPMENT G ALS







































- ・岡山県の北部に位置
- ·面積は県下最大の828km (東京23区の約1.3倍)
- ·人口約45,000人、高龄化率39%
- ・少子高齢化が進む中山間地域



多彩で豊かな「ひと」が持続可能な「まち」を目指し奮闘中 5



<真庭市の人口の現状と課題>

- ①人口減少に加え、年齢構成の急激な変化
 - ⇒2040年に人口約32,000人と予測(2020年予測比 約10,000人減)
- ②自然減と社会減が続く
 - ⇒<u>都市部への進学後の就職で20代の社会減が今後も続く</u> と予想
- ③20代後半のUターン等による「里帰り」もみられるが…
 - ⇒低調な値で推移しており、人口減少の歯止めが期待薄

出典:真庭市人口ビジョン

【キーワード】人口減少(過疎化)、少子高齢化、地域や産業の衰退



<施策の方向>

- ①真庭にしごとをつくり、安心して働けるようにする
- ②真庭への新しいひとの流れをつくる
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望と教育・社会福祉を

地域で支える仕組みをつくる

- ④時代に合った<u>地域をつくり、安心なくらし</u>を守る
- ⑤地域と地域を連携する(広域連携の推進)

出典:真庭市人口ビジョン

【キーワード】産業、交流、生活環境



<目指すべき将来の方向>

【まち】多彩なまちの魅力に磨きをかけ、育てながら、人の流れを変える

【ひと】 縦軸と横軸の連携による参画と協働により多様な取り組みを進める

【しごと】 地域資源を生かした「回る経済」を確立し、就業環境の多様化と質の向上を図る

出典:真庭市人口ビジョン

【キーワード】産業、交流、生活環境



① 真庭市における2020年と2040年の人口比率

	2020年		2040年		20年対比
総人口	43,302人		32,787人		75.72 %
老年	17,195人	39.71%	14,069人)	42.91%	81.82%
生産年齢	21,090人	48.70%	15,157人	46.23%	71.87%
年少	5,017人	11.59%	3,561人	10.86%	70.97%

※老年(65歳以上)、生産年齢(15歳~64歳)、年少(14歳以下)

出典: RESAS

生産年齢人口と老年人口の差を比較すると・・・



► 2040年 1,088人



真庭市の財政見通し

(単位:億円)

	平成28年度	令和元年度	令和5年度
義務的経費	131	131	140
うち扶助費	31	32	33
投資的経費	49	33	34
その他経費	140	124	117
歳出計	320	288	292
歳入計	333	284	284

計画の初期(令和元年度)、終期(令和5年度)、決算確報値(平成28年度)を抜粋し、比較。 1億円未満は、四捨五入。 出典:真庭市財政の見通し(平成30年10月)

歳出合計に占める扶助費の割合は年々増加(金額ベースで約2億増)

平成28(2016)年度 9.55%

令和元(2019)年度 10.96%



令和5(2023)年度 11.22%

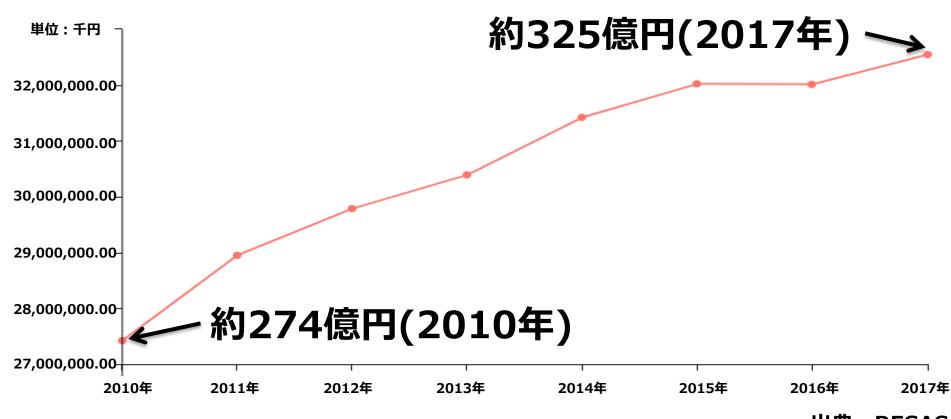
現役世代である生産年齢丿



庭市の現状 介護費用、要介護認定者等の推計

③ 介護費用(65歳以上人口10万人あたり)の推移

真庭市(岡山県 真庭市) すべての大分類>すべての中分類



<u>出典:RESAS</u>

真庭市における65歳以上ひとり当たり介護費用(推計)

2010年 2017年 32.5万円

<u>このまま続くと⇒</u>

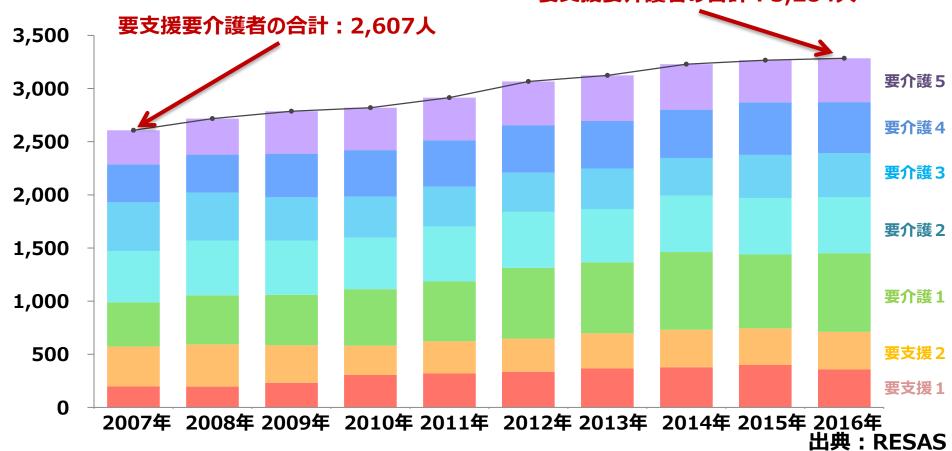
2020年 **34.7万**円 2040年

11

庭市の現状 介護費用、要介護認定者等の推計







このグラフから見る将来の要介護(要支援)認定者数の推計

2040年 2020年 **3,584**J **5,088**人

これを生産年齢人口で割ると・・・

2020年

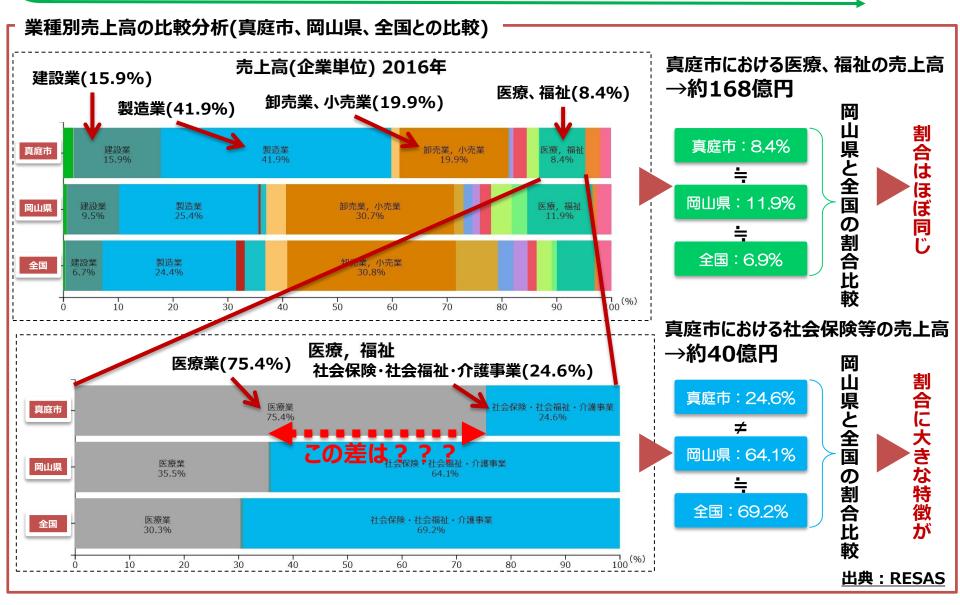


負担增!! 2040年 約3人にひとり



庭市の現状 医療、福祉分野の分析



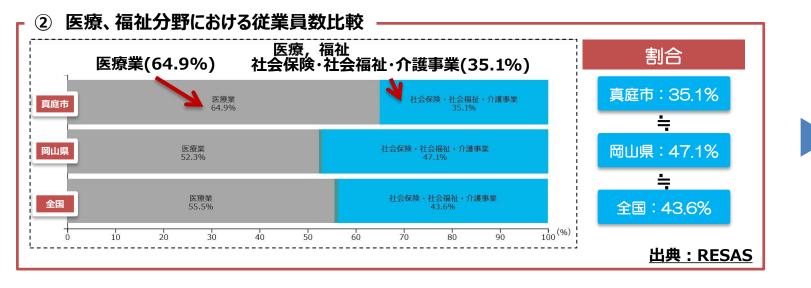


医療分野の割合が高く、福祉分野の割合が低い



医療、福祉分野における企業数比較 医療,福祉 割合 医療業(78.9%) 社会保険·社会福祉·介護事業(21.1%) 真庭市:21.1% 真庭市 ÷ 岡山県:25.4% 社会保険・社会福祉・介護事業 25.4% 医療業 74.3% 岡山県 ÷ 医療業 全国 全国:22.2% 10 20 50 出典: RESAS





企業数・従業員数の割合に大きな差はない



福祉分野の企業数又は従業者数ごとの売上高比較表

	真庭市	岡山県	全国
1 社当たりの 売上高	約1.7億円	約3.5億円	約3.7億円
従業員1人当たりの 売上高	約670万円	約1,300万円	約1,610万円

福祉分野の企業数又は従業者数ごとの売上高を比較すると…

真庭市は、岡山県・全国と比べ2倍近くの差がある

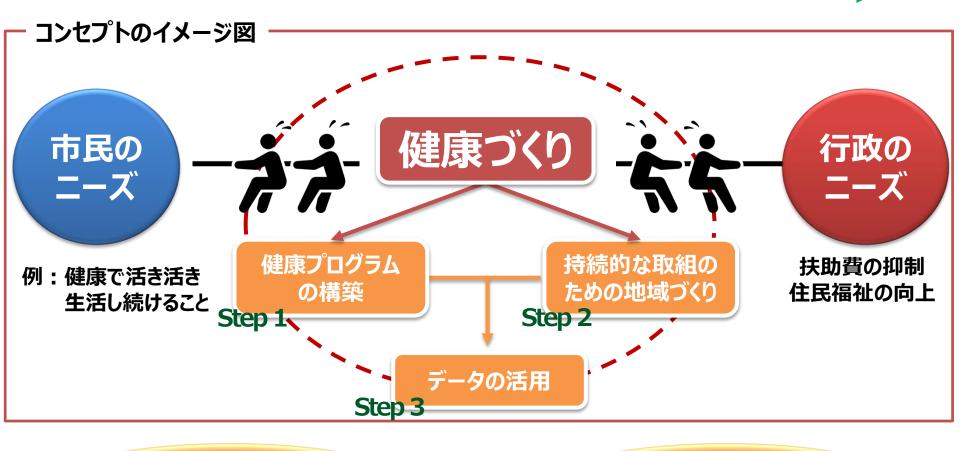
⇒真庭市の福祉分野の事業規模が小さい



<真庭市の福祉分野における課題>

- ①生産年齢人口と老年人口の差の縮小 (少子高齢化)
 - 要介護認定者数の増加
 - ⇒<u>介護ニーズの増加、担い手不足</u>
- ②扶助費の増加、介護費用の増加
 - ⇒市財政の悪化
- ③事業所の規模が小さい
 - ⇒<u>増加する介護ニーズへの対応が困難</u> 賃金格差による都市部への人材の流出

たな取組に向けて 私たちが考える施策のコンセプト



ひとと地域の健康づくり×小さな地域ビジネスの創出



これらを掛け合せることでSDG s (世界を変えるための17の目標)

「3 すべての人に健康と福祉」

を目指します!



Step 1 健康プログラムの構築

地域のニーズを把握し、実情に合った食や運動などの健康プログラムを構築する。

Step 2 持続的な取組とするための仕組みづくり

行政と地域の役割を明確にし、健康プログラムの実施を持続的な取組とすることを目指す。

Step 3 データの活用

ウェアラブル端末などIT機器を活用し、活動データやランキングなどが閲覧できる個人ポータルの構築、地域毎の集計による統計データの活用を目指す。



たな取組に向けて 健康づくり取組実例 湯原「まんぽジム」

Step1

ひとと地域の健康づくり



開催期間:平成30年12月

~平成31年3月

開催回数:26回

延参加者数:587人

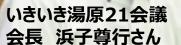
運動プログラムの実施

継続的な健康データの測定

- ・みんなと運動するのが楽しかった
- ・運動の習慣ができた



地域が主体的に取り組んだ優れた事例



新

たな取組に向けて 実例に学ぶ地域と行政の役割

ひとと地域の健康づくり



例) ウェアラブル、体組成計、スマホなどの活用

Step3

地域のニーズに合ったメニューの実施・開発

地域のニーズを解決する実践役

主に健康をキーとした様々なメニュー

Step1



了行政

実践者の支援役

ウォーキング



・優良事例紹介(まんぽジム) →事例の横展開



行政主体





- ・空き家の活用
- ·未利用公共施設 の有効活用

行政課題

行政は、地域のサポート役

データ分析による新たなメニューの開発

→ 例) データ蓄積→加工→ランキングや個人への情報提供

20



たな取組に向けて 地域ビジネスモデルの可能性

Step2 小さな地域ビジネスの創出

「研究者の視点から見た過疎地域問題」として、

岡山大学大学院環境生命科学研究科博士後期課程 房安功太郎氏

【概要】

の論文からビジネスモデルの可能性を検証

真庭市中部の旧勝山町、人口約1,500人で高齢化率40%を超える過疎化、高齢化が進むT地域を対 象に生活支援ビジネスついての研究が行われたものです。

日常生活支援サービスに対する住民アンケート調査を分析

サービス名	需要規模
生活交通	73,000円/月
草刈り	81万円/年
農作業補助	32,000円/月
通院の付添い	8,600円/月
買い物代行	11万円/月
家事手伝い	67,000円/月
話し相手	0円
安否確認	0円

年額換算すると・・・

約430万円

の需要があると分析できる。

真庭市内には、同様の地域が

30か所程度存在

430万円×30か所=

1億2,900万円

出典:人口減少下の中山間地域における生活関連サービス供給システムの設計と経済評価-岡山県真庭市T地域を対象として-(2011年)

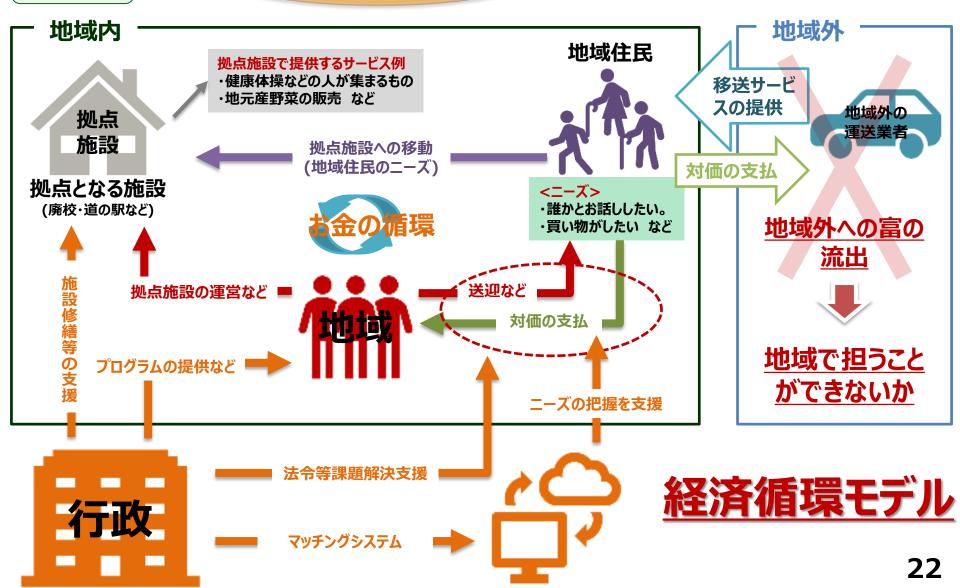
小さなことでもビジネス化できる可能性・・・



たな取組に向けて 実現可能な地域ビジネスモデル

Step2

小さな地域ビジネスの創出



たな取組に向けて 私たちが提案する政策



地域が実現したいことを支援

データ集約

健康管理システム

動く



運動と食のプログラム





- ・サイクリングロード散策
- ・地域野菜を使った栄養指導
- ・移送支援、買い物支援

Step1

システムが有する機能

- ・健康に関するプログラムの蓄積、配信
- ・プログラム実施情報の配信
- ・プログラム実施情報の収集、分析 (AIで自動化)
- ・プログラム実施情報の蓄積 (アーカイブ)

※健康に関する情報を一元的に管理し、プログラム実施情報の収集・分析・配信を行うことができるシステム(健康のプラットフォーム)





- ・システムの構築、維持管理
- ・地域のシステム活用支援
- ・データ分析による新たな施策の実施

たな取組に向けて 20年後(2040年)へのロードマップ

私たちが目指す20年後(2040年)のありたい姿

~地域のあるべき姿と行政のかかわり方~

		地域		行政	
Step1	2年後 (2022年)	・地域に必要なことを探す・様々な健康プログラム乳		・健康プログラムのノウハウ提供 ・健康プログラム実施支援	
Step2	3年後 (2023年)	・地域住民による相互支援 →移送などの日常生活		・プログラム実施に伴うデータ収 集、分析、配信	
Step3	3~5年後 (2025年)	・健康プログラムの実施を事業化 ・データの分析、活用		・収集した活動データを可視化し、 分析できるシステムの構築 (健康管理システム)	
活	2030年までに		204	2040年には	

主体的に稼ぐ地域となり、必要な ことを自分たちで実施し、健康で幸 せで持続可能な地域として自立し ている。

住民が主役のまち

が実現

24



デア たな取組に向けて 実現後のさらなる可能性

いつでもどこでも誰でも情報を可視化できれば・・・

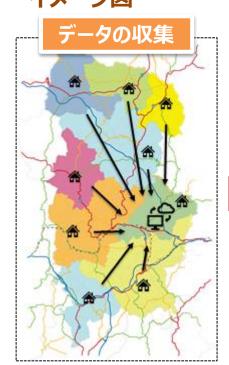
Step3

【概要】健康マップのベースとなる真庭マップに各種データをマッピングできるシステム

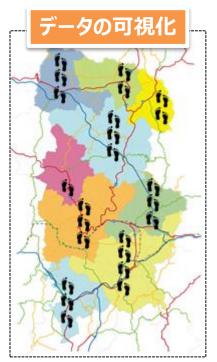
【機能】大字、地域自主組織、小学校区、振興局単位で表示ができ、地域ごとの比較が可能になる。

【成果】地域の比較や時系列での比較が可能になり、政策の反映に繋げることが可能になる。

イメージ図



歩数を表示



市内各地域から集まったデータを地図上に表示

そのほかにも

- ·人口比率
- ・地域内消費状況 など 重ねて表示することも可能



地域の人も 簡単に 分析できる!!



たな取組に向けて さぁはじめよう! 地域×健康プログラム

この春、開通した

サイクリングロード「旭川・りんくるライン」を活用







「りんくるトライアスロン」と称したイベントを実施し、

「地域の経験をデータ化」していきます